

丸の内キャリア塾とは、キャリアデザインを考える女性のための実践的学習講座です。毎回、キャリアやライフプランに必要な考え方と行動について多面的に特集しています。

NIKKEI 丸の内キャリア塾 <https://nwp.nikkei.com/marunouchi/>
Facebookページは <https://www.facebook.com/marunouchi>
Instagramアカウントは https://www.instagram.com/_marunouchi/

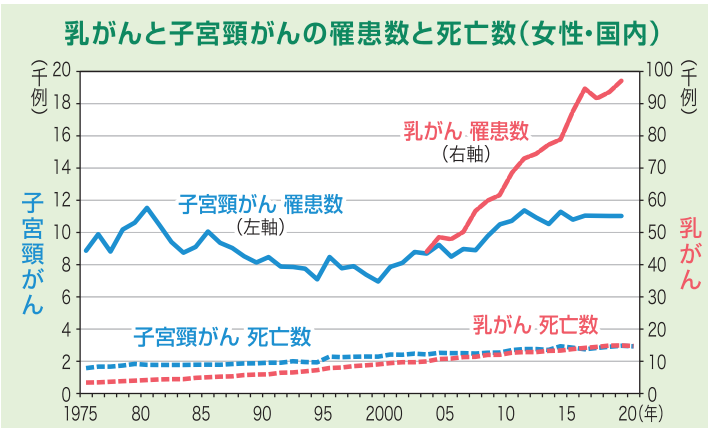


「女性の健康週間」3/1~8

産婦人科医が女性の健康を生涯にわたり総合的に支援することを目指し、3月3日のひな祭りを中心に3月1日から8日の国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会の共催で2005年にスタート。08年からは、厚生労働省も主催する国民運動として様々な活動を展開しており、今回で19回目を迎えます。全国各地で開催される女性の健康に関する市民公開講座などの情報は、日本産科婦人科学会ホームページの「イベント情報」よりご確認ください。



乳がん、子宮頸がんは、性交渉によるHPVというウイルスの感染によるものがほとんどです。そのため小学校6年生、高校1年生相当の女子を対象としたHPVワクチンの定期接種により、罹患リスクがかなり低減できるのですが、残念ながら接種の積極的勧奨が2013年から停止していたこと



丸の内キャリア塾スペシャルセミナー

オンラインライブ配信
事前登録制(無料)

あなたのリプロダクティブヘルス&ライツを考えよう!
～自分らしく生きる。体・心・性～

■日時：2023年3月1日(水) 18:00~20:30

お申し込み
お問い合わせ

<https://events.nikkei.co.jp/55631/>

または 日程イベント&セミナー

検索

応募締め切り 2023年 2月28日(火) 12:00

企画・制作＝日本経済新聞社Nブランドスタジオ

がん患者増加に歯止め ワクチン接種、検診が鍵

女性の健康週間 インタビュー 4 女性特有のがん

「女性の健康週間」を応援する本特集、4回目は「女性特有のがん」を取り上げます。国内では乳がんや子宮頸(けい)がんなどの罹患(りかん)数、死亡者数が増加の一途をたどっています。大阪大学の上田豊先生は、「ワクチン接種やがん検診など、がんで苦しむ方を減らすためにできることは多い」と指摘しています。



上田 豊先生

大阪大学大学院医学系研究科
産科学婦人科学教室

若い世代への影響大きい
乳がん、子宮頸がん

——女性特有のがんとは、どんながんですか。

上田 女性特有の臓器である、子宮や卵巣、乳房などに発生するがんです。子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん、乳がんなどが挙げられます。特に乳がん、子宮頸がんは、国内で患者数、死亡者数が増加傾向にあり懸念されます。女性が生涯に罹患する確率として、乳がんは9人に1人くらい、子宮頸がんで七十数人に1人くらいといわれており、年間でそれぞれ約1万5千人、約2900人の方が亡くなっています。

がんへの意識高める
家族で話題共有も

——欧米ではこれらのがんの死亡者数は減少傾向にあるそうですね。

上田 HPVワクチンの接種率の他に、がん検診の受診率の違いが理由として考えられます。乳がん、子宮頸がんは、胃がんや大腸がん、肺がんなどと共に市町村単位でがん検診が実施されており、乳がん検診は40歳以上、子宮頸がん検診は20歳以上で、2年に一度の検診が推奨されています。欧米ではこれらの受診率が高い国だと9割を超えていますが、日本では5割に届いていないのが実情です。

——自分でできることはありますか。

上田 がんは何年もの進行するため、できるだけ初期の段階で発見することが大事です。乳がんはセルフチェックでリスクに気付くこともありますが、自己触診で乳がんを発見することは難しいため、入浴時や着替えのときなど普段から自分の乳房の状態を意識し、変化に気づく「プレスト・アウェアネス」という生活習慣を持つことをお勧めします。

例えば、しこりや分泌物、皮膚のただれやくぼみ、痛みなど、いつもの乳房との違いを感じたらすぐに医師に相談するようにしましょう。

子宮頸がんは自覚症状も少なく、セルフチェックも難しいため、なるべく早い時期から検診を受けることが重要です。20代から検診を受けると、子宮頸がんになる前の前がん状態で見つけれられる可能性も高まります。大阪大学実施のアンケート調査では、母親が子宮頸がん検診を定期的に受けている家庭では娘さん20歳以上になったら検診を受ける率が高いという結果が出ました。家族でがんに関する話題を共有できるようにするのがいいですね。

働く女性の健康管理 ～制度拡充が鍵

働く女性の月経や更年期などによる不調は、ビジネスにも大きな影響を及ぼします。女性がさらに輝くために積極的な対策が必要です。

企画・制作＝日本経済新聞社Nブランドスタジオ

広告

女性の健康課題をテクノロジーで解決する「フェムテック」も広がっています。月経不調、更年期などを管理するアプリや、生理痛などを緩和する低用量ピルをオンライン診療で処方するなどのサービスが開始されています。こうしたサービスなどを活用し、女性の健康課題に積極的に取り組むことが、企業の成長の鍵を握っているのではないのでしょうか。



経済産業省が2019年に発表した調査では、月経による労働損失、労働量や質の低下は国内で491億円にも及ぶと試算されています。また月経だけでなく、不妊治療や更年期などによる休職や離職などを考えるとその影響はさらに莫大なものになります。

日本の福利厚生は長らく中年の男性視点で、メタボ健診や生活習慣病の予防が中心でしたが、働く女性の健康管理についてもクローズアップされてきています。個人情報に配慮しながら、シフトや休暇などを取りやすくしたり、休職してもキャリアを途切れさせないなどの制度を拡充したりする企業が増え、また産業界が中心となり女性の健康相談窓口を開設したり、男性社員の啓発を目的として、社内での女性の健康にまつわる知識講座を実施したりする企業も出てきています。

約半世紀、 女性たちの笑顔のために

近年、働く女性が増えている一方で、月経や妊娠・出産など、女性特有の健康課題に悩まされる方も少なくありません。そんな女性の健康リスクを、医薬の力で支えたい。私たち富士製薬工業は、そう願っています。1965年の会社設立以降、女性医療分野に特化し、ライフステージに寄りそった医薬品を開発・製造・販売。また、スマートフォンアプリの提供をはじめ、女性の健康支援を目的とした啓発活動も行っています。私たちはこれからも、働く女性のすこやかな毎日のために、女性のこころとからだをトータルにサポートしてまいります。

富士製薬工業株式会社

本社 東京都千代田区三番町5番地7
富山工場 富山県富山市水橋辻ケ堂1515番地
研究所 富山県富山市水橋中村447番地1
海外拠点 OLIC(Thailand) Limited

<https://www.fujipharma.jp/>



東京証券取引所
プライム市場
証券コード：4554

カラダの不安や悩み、
「LiLuLa」で解決の
ヒントを見つけませんか。

女性のための健康支援アプリ

LiLuLa リルラ



※アプリ画面はイメージです。

アプリストアで無料ダウンロード

App Store
からダウンロード

Google Play
で手に入れよう

